

高度医療人材養成拠点形成事業（高度な臨床・研究能力を有する医師養成） タイプB 取組の概要と推進委員会からの主なコメント

代 表 校 名 (連携大学 名)	長崎大学
事 業 名	次世代を紡ぐ SDGs な感染症医療人材と研究者の育成
事 業 責 任 者	長崎大学病院感染症医療人育成センター長・教授 古本 朗嗣
事 業 の 概 要	
本学は「地球の健康」の実現のため「プラネタリーヘルス」を標榜しており、AMED/先進的研究開発戦略センター（SCARDA）によるワクチン開発など、多くの感染症課題研究に取り組んでいる。臨床研究中核病院である本院は、多くの特定臨床研究等を主導すると共に、国主導の新興感染症に関する感染症臨床研究ネットワークに参加し、グローバルヘルス分野への貢献を進めている。 本学の多彩な感染症研究環境を活かした卒前・卒後のシームレスな教育により次世代の感染症臨床研究医を養成し、本邦では依然として少ない感染症研究者の育成を促進する。 【卒前教育】希望する医学生に SA として教育業務や研究補助業務に参加させ、感染症における課題、臨床研究の方法について学ぶ機会を提供し、感染症教育や感染症臨床研究の実践能力を培う。 【卒後教育】初期研修や専門医養成のプログラムの過程で、自立した感染症臨床医及び研究医を養成する。	
推進委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等	
○感染症領域の教育、国内外で様々な感染症研究の実績があり、海外研究拠点（ベトナム、ケニア、ブラジル、フィリピン）でも臨床研究が進められている。 ○感染症医療人育成センター及び感染制御教育センターを中心とした体制が確立されており、教育、診療、研究に関わる学内組織にて構成される「感染症・臨床研究教育ユニット」を設置。 ○医学生、大学院生、研修医、専攻医等が重層的に感染症に関する教育や臨床研究を国際レベルで進める構想となっている。 ○研究創出支援チームの新設が記載されている。 ○地域病院実習の活用についての記載がある。 ○感染症について、シミュレーション・システム等を用いた重点的な臨床実習を行う。 ○今までの実績から、拠点としての役割を果たしうる事が予想される。 ○事務局の設置、また、学外の感染症研究者、医学教育学者、病院管理者、保健医療行政職等からなる外部評価委員会を設置予定。 ○臨床実習充実事業について具体的に記載されている。 ●既存の取組と本事業で新たに始める事との区別が必要。 ●感染症分野以外においても展開するという将来像についても検討されることが好ましい。 ●各部署の研究時間のモニタリングと、時間の確保がどのように結びつくかが不明瞭であり、モニタリングすることで研究業務への強制を含めて規制の強化と捉えられないように留意されたい。 ●他大学や他県への展開についても明示することが望ましい。 ●総合診療科の事務職員のみで想定される業務を行う事についての実現可能性について懸念がある。 ●学長又は部局長等をトップとしたガバナンス体制、学外機関との連携構築について不明瞭である。 ●コンソーシアムを構築するとしている「多種多様な企業、団体、グローバルファンド、他の研究機関、行政機関」について具体名を提示することが望ましい。 ●企業等の学外との協力連携体制は事業継続に有効と考えられる。	